

就活生を集客するコツは  
片言の中国語で粋なジョーク

◆投資用中古ワンルームマンションの販売・管理業の日本財託グループ（東京都新宿区）では、外国人入居者をサポートする国際事業部で多くの外国人スタッフが活躍している。採用のため、外国人向け合同会社説明会に出展するこ

ともあったが、「いつもアースに人がたくさん集まり、集客に困ることはなかった」という。人を集めるコツは、同じ母国語のスタッフに会社説明をもらうこと。日本人が片言の中国語や韓国語を使うより、コミュニケーションがとりやすいのだ。「私の役目は『私はイケメン』と中国語で言って笑いを誘うだけ」（白川部長）。あとは頼もしいスタッフに任せているようだ。

### 3回繰り返し読んで見える本質

1カ月に8冊読む読書家社長  
振り返りの習慣を仕事に生かす

◆同じ本を3度読む——不動産情報サービスの企画・運営を行うファインド（神奈川県横浜市）の坂場敬次郎社長（49）は、1カ月に約8冊の本を読む読書家。そんな坂場社長は、気に入った本を3回読むことを習慣としている。回数を重ねるたびに新しい見解や発見があるようで、それは仕事にも生かされているという。「やるべきことをとにかく書き出し、それを1日のうちに何度も見返すと、本当に大切な事が見えてきます」。振り返りの習慣は、立ち止まって周囲を見渡す視点、余裕が生まれるのかもしれない。

玄関ネ夕

